



2022年
12月号
クリスマス号

発行所
神戸教区事務所
TEL 078(351)5469
FAX 078(382)1095
<https://www.nskk-kobe.org/>



発行責任者
司祭 瀬山 会治
印刷所
文明堂印刷所

船上のクリスマス

司祭 ポール・マイケル・トルハースト



1888年、ザ・ミッシェン・ツーフエアラースが日本に上陸したのと同じ頃、スコットランドの作家R・L・ステイブソンは「船上のクリスマス」と題する詩を書きました。極寒の海で荒波にもまれる木造船の乗組員として働く船員の姿と、陸(おか)の人々が教会に行き、家族とともに楽しくイエス様の誕生を祝っている様子が対比され、一年で最も幸せと喜びに満ちているはずのクリスマスに、家族や愛する人から遠く離れている船員たちの孤

独が伝わってくる感傷的な作品です。疎外感や距離感、募る孤独など、この詩に描かれた生活は、今も変わらぬ船員たちが感じている現実には他なりません。さらに2年に渡るコロナ禍によって、船員たちが家族から切り離される辛さは増えています。一般には移動制限の緩和が始まりましたが、まだどの国でも船員は上陸できません。たとえ進んだITシステムがあっても、否、あるからこそより孤独になり、日常から遠く隔てられた孤

立感から、多くの船員が問題を抱えるようになるのです。今、疎外感や孤独を感じている人々は世界にいます。「存在するの目に入らないし、気にされることもない」、船員たちを含め、そうした人々が少しでも救われるように、MTSでは、彼らが忘れ去られることなく、社会の大切な一員だと再認識してもらいための支援を行っています。



例えばクリスマスに家族と祝えない船員たちのために、贈物と一緒に祝える何かを、直接届ける活動をし、孤独な人々に手を差し伸べ、イエス様の愛を分かち

合うーそれが教会を始め私たち全員に求められている使命です。些細な行いでも、そこからすべての人々をイエス様による愛に満ちた場所へと導くことができるのではないのでしょうか。

クリスマスが来る度に疎外感や孤独が多くを苦しめていると思ひ知らされます。そして気づくのです。クリスマスとは、イエス様が人々を神さまのもとに導く架け橋となるために、この世に來られたまさにその日であった。

どうか憶えていてください。どんな悪天候でも世界の海を渡り、必要なものを運んでくれる船員たちのために、あなたが誰かとお祝いや礼拝を楽しみ際には、海上で孤独に過す彼らに、ひととき、神の祝福が届くよう祈ることを。

メリー・クリスマス
(ザ・ミッシェン・ツーフエアラース神戸チャプレン)

クリスマスの聖歌を歌うとき

神戸教区オルガニスト ミリアム 伊藤純子



クリスマスの聖歌を歌うとき、そこに生まれるものは何でしょうか。「クリスマスが来たな」という想いや、「何となくウキウキ心弾む」気持ちもあるでしょう。そして何よりも、そこには「情景」が浮かんでくるのではないのでしょうか。

例えば「まきびとひつじを」や「あらのはてに」では、冷え切って真っ暗な空気感の中に佇む羊飼いた

ちの情景が脳裏にはつきり浮かび、実際に自分もその情景の中に入り込み、天から差し込む一筋の光を見つけて一緒に喜んでいくのでしょうか。博士たちと並んで、天高く光る星に見守られながら暗闇を歩いているような気分にもなります。

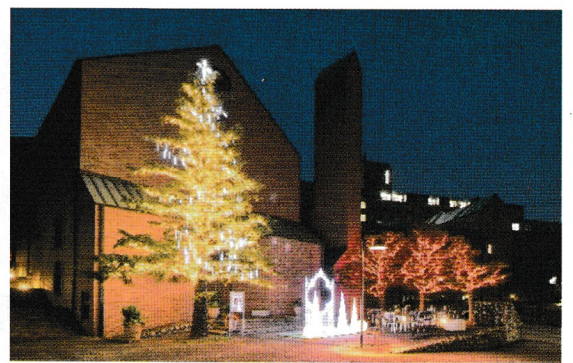
「きよしこのよる」では馬小屋の匂いに包まれ、凍える部屋に灯される柔らかな光に温められている自分がい

ます。

これらの歌詞を、メロディなしで、目で追う行為と、歌いながらメロディを味わう行為とでは、驚くほどの相違があるように感じます。同じ歌詞なのに何故でしょうか。その答えは、「音楽の力」にあると思います。

そもそも聖歌を歌う意味、礼拝で音楽が奏でられる意味は、そこにあると言えるでしょう。16世紀の宗教改革でマルティン・ルターは、自国語での会衆賛美の必要性を訴えました。会衆賛美の目的は何なのか、目的達成のためにはどのようなメロディが相応しいかについて、ルターの様々な言葉が残されています。

日常生活の中で聖書の内容を味わうためには、日ごろ何気なく口ずさめて、皆と一緒に声と心を合わせる事ができて、聖書の内容を多角的に肌で感じ取る事ができる力を持ったメロディが必要、そのようなメロディの讚美歌は、耳にし



ただで聖書の内容が伝わってくる、というルターの目的は、手に取るように実感できます。

では伴奏の力はどのようにか。伴奏なしでメロディだけ歌うことと、伴奏付きで歌うことにも、大きな違いがあると思います。伴奏には本来、皆にとって気持ちよく歌うためのサポートとしての役割があります。その役割が全うされれば、各自がのびのびとお腹の底から歌い、結果的に皆の声が混ざり合うという結果になります。1+1=

2以上の効果を生み出すこともあります。無伴奏の美しさもありますが、リズムという秩序がないと、かえって不自由さを感じることもあります。

一方で、伴奏があれば何でも良いというわけではありません。のびのび歌うための弾むようなリズムの提示がなければ、伴奏に「引張られる」か、伴奏に「型にはめられてしまう」という残念な状況になります。全部の声部を伴奏しなくても、リズムかメロディの提示だけの方が効果的な場合もあります。

オルガニストは日々このようなことを想いながら聖歌を弾いています。今年のクリスマス、皆さまお一人お一人の心の隅々にまで、クリスマスの音楽が満ち溢れますように！



ランベス会議報告

主教 オーガスチン 小林尚明

7月27日(水)から8月7日(日)まで皆様のお祈りとご支援を頂き、英国南東部カンタベリーで行われた第15回ランベス会議に連れ合いと共に参加し有意義な経験をさせていただきました。ありがとうございます。

今、会議を振り返ってみて、参加案内に第一回のランベス会議(1867年)の目的を「世界中の多くの主教が、共に祈り、聖書を学び、話し合うために集まりたい」と切望していたとありましたが、この三つを満たされた会議だったと感謝しています。約660名の主教たちが集い、静想、礼拝、小グループで祈りを共にしました。

今回の会議のために選ばれた「ペトロの手紙」の学びから、信仰の希望、喜び、そして、使命を再確認できました。また現代の世界において様々な問題がありますが、1998年の会議までは、「決議」とされていた内容が、「決議」という言葉では、拘束力のある決定を意味しますので、今回は「ランベス・コール(ランベスカ

らの呼びかけ)」という表現になりました。内容は決議と同じですが、拘束力を持たず、アングリカン・コミユニオンの各教会に対して、要請の形になっています。今後の10年、この呼びかけにどう答えていくかが、私たち日本聖公会にも問われています。呼びかけの内容は、「宣教と福音伝道」「和解」「セーフ・チャーチ」「環境と持続可能な開発」「弟子であること」「人間の尊厳」「聖公会のアイデンティティ」などなどです。これらのテーマについて、今回私たちが話し合った内容が、吟味され、来年2月にアフリカのガーナで開催される全聖公会中央協議会(ACC)で最終決定され、各管区に送られてくるようです。興味のある方は、管区事務所のホームページをご覧ください。

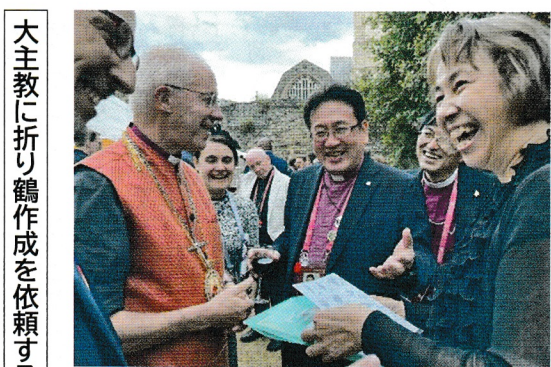
私は、2019年2月にカンタベリー大聖堂で行われた新任主教研修に参加しましたが、そこで知り合った多くの主教たちと再会できたことも喜びました。また、その新任主教研修で紹介された「み国が来ますように」の活動(昇天日から聖霊降臨日までの間、5名の導きのために祈る)を2020年から日本聖公会も参加するようになったことなどを、7月30日(土)の「Thy Kingdom Come」セミナーで報告することも出来ました。そして、無謀とは思いますが、カンタベリー大主教に折り鶴作成を依頼する



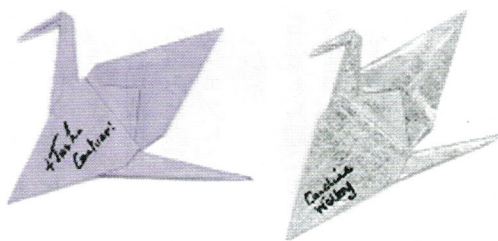
日本からの参加者

今回の会議のために選ばれた「ペトロの手紙」の学びから、信仰の希望、喜び、そして、使命を再確認できました。また現代の世界において様々な問題がありますが、1998年の会議までは、「決議」とされていた内容が、「決議」という言葉では、拘束力のある決定を意味しますので、今回は「ランベス・コール(ランベスカ

らの呼びかけ)」という表現になりました。内容は決議と同じですが、拘束力を持たず、アングリカン・コミユニオンの各教会に対して、要請の形になっています。今後の10年、この呼びかけにどう答えていくかが、私たち日本聖公会にも問われています。呼びかけの内容は、「宣教と福音伝道」「和解」「セーフ・チャーチ」「環境と持続可能な開発」「弟子であること」「人間の尊厳」「聖公会のアイデンティティ」などなどです。これらのテーマについて、今回私たちが話し合った内容が、吟味され、来年2月にアフリカのガーナで開催される全聖公会中央協議会(ACC)で最終決定され、各管区に送られてくるようです。興味のある方は、管区事務所のホームページをご覧ください。



大主教に折り鶴作成を依頼する



カンタベリー大主教から届いた折鶴 サイン

に折り鶴を折ってもらいたい、という希望をもって、お願いの手紙や折り方の説明図、折り紙、広島の折り鶴、佐々木貞子さんの物語などを持参していました。それを8月4日(木)の夜、大主教にお渡ししました。すると二日後の広島の日、秘書の方から届いたのが、写真の折り鶴と格調高い大主教のお手紙でした。それは今、広島復活教会にあります。広島を訪問される方は、ご覧ください。恵まれた旅を皆様と皆様感謝しています。

鳩だより

《敬称略》

祝 洗 礼

10月15日(土)
マリア 片岡 賀代子
岡山聖オーガスチン教会

10月23日(日)
マリア 阿野 純
高松聖ヤコブ教会

祝 堅 信

10月30日(日)
マリア 阿野 純
高松聖ヤコブ教会

ご 逝 去

10月13日(木)
ヨハネ 吉村 益吉
下関聖フランシス・ザビエル教会

10月19日(水)
マリア ヤ下 窪 和美
徳島インマヌエル教会

10月28日(金)
マリア 岡上 文子
福山諸聖徒教会

教 籍 異 動

10月16日(日)
マリア 安信 恵美
倉敷聖クリストファー教会から
倉敷聖約キリスト教会へ



2023年 日本聖公会宣教協議会

ぶどうの枝だより

5

これまでの「ぶどうの枝分科会」について

来年の十一月に開催される宣教協議会までの期間をより有意義な時間とするために、日本聖公会に連なるさまざまな団体と実行委員会とが分科会を行うことが提案されました。この分科会は「ぶどうの枝分科会」と名付けられました。この分科会を宣教協議会のプロセスの一部として位置づ

け、定期的に開催することになりました。

第一回目の分科会(管区諸委員会編)は、今年の二月二五日・三月四日に開催されました。管区諸委員会の代表者の皆さんをお招きしました。各委員会へのアンケートの回答をもとに報告があり、その後意見交換の時を持ちました。各委員会のこの十年の働きの恵みと課題について分かち合いました。それぞれの委員会の

多様な働きが、すべてイエス様につながっていることに感謝を受けました。

第二回目の分科会(青年委員・青年担当者編)は、五月九日・十五日に開催されました。管区の青年委員と各教区の青年担当者をお呼びしました。日本聖公会の中で青年たちやその活動について話し合われました。宣教協議会においても、青年たちを「お手伝いさん」として扱うのではなく、これからの聖公会を担う存在として接することの大切さが共有されました。

第三回目の分科会(原発問題プロジェクト編)は、六月九日に開催されました。管区の問題プロジェクトのメンバーをお招きしました。まず、委員長の長谷川清純司祭から「この十年の恵みと課題」と題するお話、プロジェクトメンバーの池住圭さんから「原発と核の問題と聖公会宣教課題について」と題するお話があり、その後意見交換がなされました。この分科会を通して、原発や核の問題は東日本大震災から十年を経てもなお現在の問題であることを強く感じさせられました。

来年の宣教協議会に向け、これからも多くの「ぶどうの枝」の皆さんと恵みや課題を分かち合えればと願っています。

1月の教区関係教役者 逝去記念聖餐式

日時 2023年1月5日(木) 午前10:30
場所 神戸聖ミカエル大聖堂
司式 主教 小林 尚明
説教 司祭 遠藤 雅己

※中止の場合がございます。恐れ入りますが、ご出席される方は、事前に教区事務所までお問合せ下さい。よろしくお願致します。
教区事務所 TEL.078-351-5469

* 1月の記念逝去教役者

1日	司祭	ウィリアム	グレ	イ
3日	司祭	パウロ	辻井	享熊
	司祭		横田	金熊
	主教	ウィリアム	オードレ	一
5日	司祭	ステパノ	福島国	五郎
6日	伝道師	ルデア	武田	八重
	司祭	ヨシュア	小南	晶一
10日	司祭	オーガスチン	林	普佐夫
11日	宣教師	ジェシー	ヴォールズ	
12日	司祭	ヨハネ	信岡	修吉
	宣教師	ステラ	ダブルデー	
15日	司祭	ヨハネ	寺本	房吉
	司祭		中野	忠治
16日	伝道師	クララ	村瀬	都允
17日	司祭	ヨハネ	八代	欽之
18日	宣教師	エセル	ヒュー	一ス
	伝道師	マリア	津田	和子
19日	司祭	ペテロ	宇野	秀太郎
22日	司祭	オーガスチン	小林	貞治
25日	司祭		大原	辰三
26日	伝道師	サロメ	飯塚	マリ子
27日	執事		秋田	温人
	司祭		松田	真幸
	伝道師		今村	

(横浜教区司祭 北澤 洋)